

美の探究

ドイツの博物館

建築をたのしむ

12/10(土)14:00~15:30

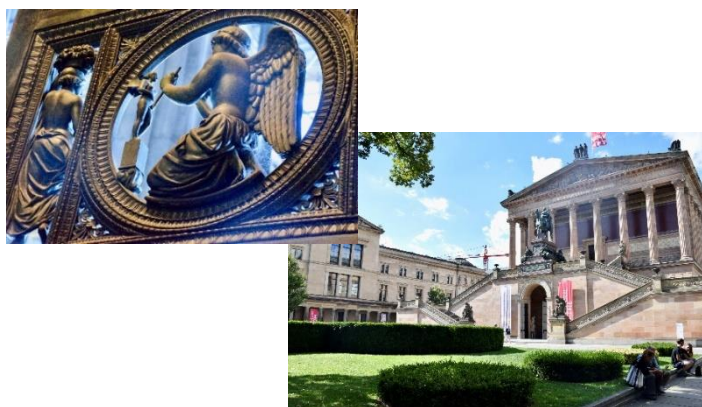


講師

京都芸術大学等非常勤講師

三井麻央

「ミュージアムの壁は白い」—現代では当たり前のことですが、はじめはそうではありませんでした。博物館・美術館の黎明期、19世紀のドイツでは展示空間を壁画や彫刻でたっぷりと装飾していたのです。一見不思議なこの空間をひもとくと、当時の歴史観や美術観、流行の建築や絵画のスタイルなど、19世紀ドイツの特徴がみえてきます。この講座では、ベルリンの博物館島などを中心に、ドイツ美術史を専門とする講師がお話しします。



講師紹介

三井 麻央 (みつい・まお)

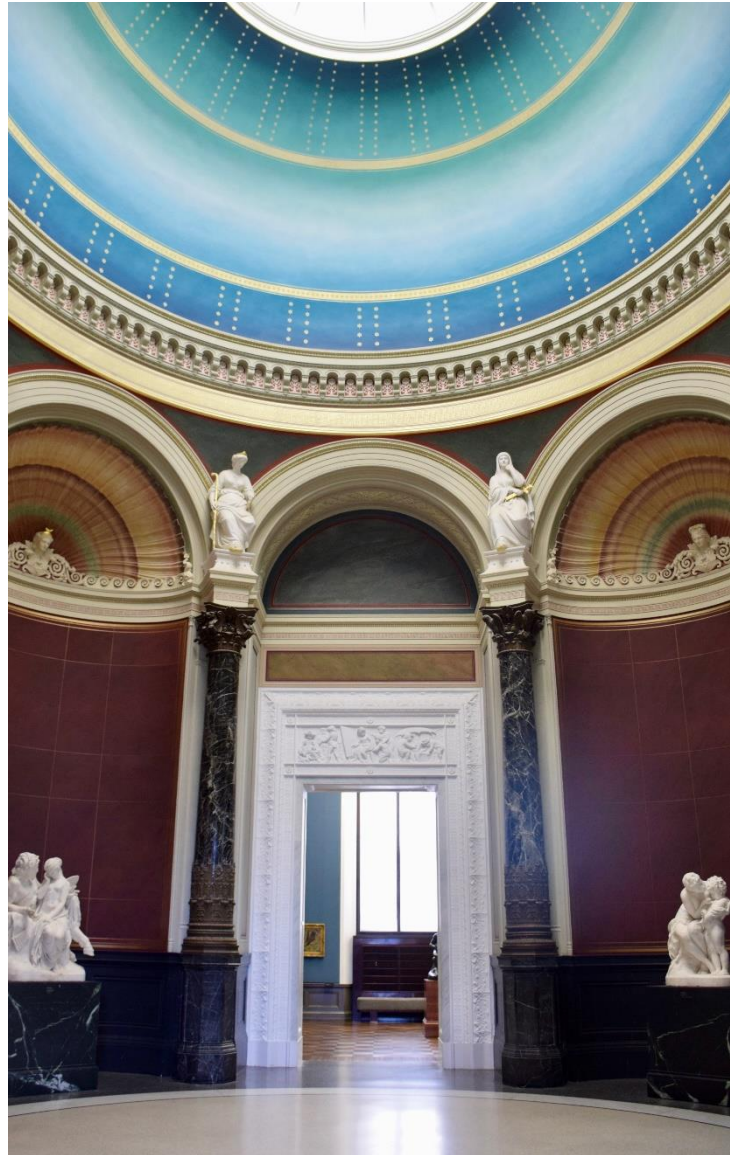
1988年岡山県生まれ。岡山大学大学院社会文化科学研究科修了(博士・文学)。岡山県立美術館学芸員などを経て、現在は京都芸術大学等非常勤講師。近代ドイツ美術史を研究。主な論文に「王の肖像と装飾—ベルリン新博物館装飾壁画に描かれたフリードリヒ二世をめぐる」(『表象』第13号、2019年)など。



お問い合わせ・申込先

主催 大田区立洗足区民センター

〒145-0064 大田区上池台2-35-2 TEL 03 (3727) 1461



対象 高校生以上

※大田区在住在勤在学の方

定員 20名

会場 洗足区民センター

申込 事前申し込み制・先着順

11月18日(金)9時より

窓口または電話にて受け付けます